



水仙から青空を見上げた
大阪市立総合医療センター西側風景

第44号 (平成29年春号)

和



大阪市立総合医療センター

3Hの理念

Heart For Public Service

広く市民に信頼され、地域に貢献する公立病院をめざす。

Humane

人間味あふれる温かな医療を実践する病院をめざす。

High-technology

高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

～掲載内容～

- チーム医療の活動紹介 「子どもサポートチーム」
- 専門外来のご案内 「外傷センター」について
- がんの診療について
「子宮頸がんに対するロボット支援下広汎性子宮全摘術
(ダヴィンチ支援下手術)」
- 「外来受付がリニューアルしました」
- 市民医学講座のお知らせ

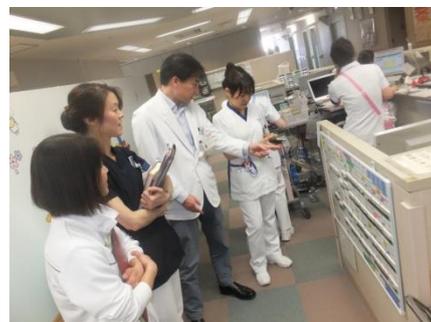
■ チーム医療の活動紹介 「子どもサポートチーム」

緩和ケア認定看護師 佐藤 恵美

子どもサポートチームは、専門性をもつ多職種が集まって活動しているチームです。

病気を発症し、通院や入院による治療を受けなければならないという状況では、お子さんはもちろん、ご家族の方にも、心配や不安また様々なストレスを抱えることになります。

例えば、検査や治療が行われる時、初めての体験だったり、過去に辛い思いをした経験があれば、つらく、怖い出来事となってしまいます。そのような体験にならないように、ホスピタル・プレイ・スペシャリストと一緒にこころの準備を行い、できるだけ恐怖や不安などを和らげることができるようお手伝いをしています。



また、病気の種類、治療の時期に関わらず、つらい症状や精神的なつらさなどに対しても、主治医と連携して症状を和らげることができるようサポートを行っています。

さらに、社会生活におけるサポートとし、医療ソーシャルワーカーを中心に医療費や制度についての紹介や社会資源についての情報提供、病気になっても保育園・幼稚園・学校に通い続けることができるような支援を行っています。特に力を入れているのは、地域との連携です。訪問看護師さんや在宅医などと

も連携し、お子さんが自宅にいても病院にいても、治療やケアが途切れることなく継続できるようなサポートを行っています。これからも、お子さんとご家族がよりよく過ごせるように、また、身近な相談相手となれるようにチーム一丸となって活動していきたいと考えています。

お困りのことがありましたら、主治医や看護師、またはお近くのスタッフにお声をかけてください。

◆子どもサポートチームメンバー◆

- 医師：緩和医療科（3名） 児童青年精神科（1名）
- 緩和ケア認定看護師（1名）
- がん化学療法看護認定看護師（1名）
- ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（1名）
- 医療ソーシャルワーカー（2名）

■ 専門外来のご案内 「外傷センター」

大阪市立総合医療センター 救命救急部 森本 健

怪我はある日突然我々の身にふりかかり、その後の生活に大きな影響を及ぼします。

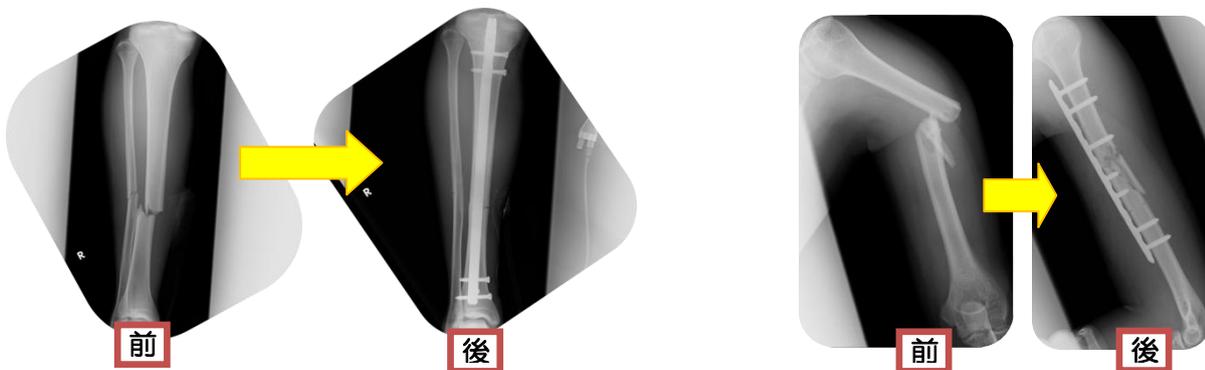
労働中の事故、交通事故、転倒などで大怪我を負ってしまい手術が必要となった方に、可能な限り迅速に、かつ専門的に対応し、早期に元の生活へ復帰できるようにするべく、4月から、当院に外傷センターが開設されました。当院の外傷センターは、主に骨折の患者さんを対象に、専門的な手術治療を行う部門です。

骨折の治療における大きな目標は折れた骨がくっつくことです。骨がくっつくまでには時間がかかります。その間ずっと安静にしていたのでは不便でしかたありません。また長期間安静にすることで関節が固くなって動きが悪くなってしまったり、長期間寝っぱなしになることで肺炎にかかってしまったり、そのまま寝たきり状態になってしまうかもしれません。そうならないためには、早く折れた骨を手術でしっかり固定し、動かし始めることが必要です。

しかし、残念ながら日本の多くの病院では、突然の骨折に対して必ずしも早急に対応出来ていません。大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドライン第2版にも「現在の医療体制では欧米並みの早期手術を行うことは困難なことが多い」との記載があるくらいです。その欧米並みの早期手術を行えるのが当院の外傷センターです。

また、手術が必要な怪我を負ってしまったけれども、心臓・肺・腎臓などに持病があったり、糖尿病があったりなど麻酔や手術を受けるのにリスクが高い方も大勢いらっしゃいます。そういったハイリスクな患者さんに対しても、当院には57にも及ぶ診療科がありますので、迅速かつ専門的に対応が可能です。

*当院外傷センターで骨折の手術を御希望の方は、お近くの整形外科を受診され、紹介状(診療情報提供書)をご用意の上、地域医療連携室へご連絡下さい。



ER・外傷センターのスタッフ

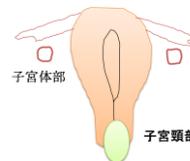
■ がんの診療について

「子宮頸がんに対するロボット支援下広汎性子宮全摘術（ダヴィンチ支援下手術）」

大阪市立総合医療センター 婦人科副部長 徳山 治

◆子宮頸がんについて

子宮は女性特有の臓器で、膀胱と直腸の間にあり卵巣、卵管および膣とつながっています。子宮がんには子宮頸がんと子宮体がんがあり、子宮頸がんは子宮頸部に発生するがんです。以前は40歳から50歳代の方に多く発症していましたが、近年では20歳から30歳代の方に増えてきています。



◆子宮頸がんの症状

初期の時は、無症状な事が多いです。病気の進行に伴い多く認められる症状として、性交時出血や不正出血（月経時以外の出血）、おりものが多くなる（茶褐色など）または下腹部痛や腰背部痛などです。

◆ロボット支援下手術（ダヴィンチ支援下手術）について

現在、欧米やアジア（特に韓国）ではロボット支援下手術は急速に増加し、アメリカでは年間44万件の手術が行われています。そのうち60%は婦人科領域で施行されています。子宮悪性腫瘍については、80%がロボット支援下手術で行なわれており、今後日本でも婦人科領域におけるロボット支援下子宮悪性腫瘍手術が増加すると注目されており、注目をされています。

◆ロボット支援下手術（ダヴィンチ支援下手術）の特徴

術野を10倍まで拡大し、きめ細やかな画面を映し出す3次元高度解析画像をもち、執刀医は3次元画像を見ながら、左右2本の手動の操作機器とフットスイッチを操作し、遠隔手術を行ないます。それぞれの鉗子は、7つの関節および自由度をもっています。直径8mmの特殊な手の代わりに鉗子で、執刀医からの指示を受けて実際に手術を行ないます。執刀医の手の動きと鉗子の動きを容易に調整することのできる機能や、執刀医の手の震えを除去する機能を有しており、ロボット支援下手術は、今までの腹腔鏡下手術の欠点を克服し、ストレスの少ない、より複雑で細やかな手術の実現が可能です。それによって手術中の出血量を減少させることが期待でき、輸血の減少につながると考えています。



01 3Dハイビジョンカメラによる鮮明な立体画像



02 7つの関節を持ち自由に動く鉗子



03 手振れ防止機能

◆当院婦人科におけるロボット支援下手術（ダヴィンチ支援下手術）について

2016年4月、婦人科領域では初めて、ロボット支援下手術による広汎性子宮全摘術が先進医療として承認されました。当科も先進医療取得に向け、子宮頸がんに対するロボット支援下広汎性子宮全摘術を開始する運びとなりました。手術は、ダヴィンチ手術のトレーニングを受け、ダヴィンチ手術の認定書を取得した医師が行います。『**痛みの少ない、小さな傷で、早期の術後回復を**』を目指し、多くの方々に低侵襲医療を提供できるように、婦人科医だけでなく、麻酔科医、看護師そして臨床工学技士による婦人科ダヴィンチチームが協力し合い、日々診療に励んでおります。



◆おわりに

がんの治療に最も大切なことは、早期発見、早期治療です。上記の症状以外でも心配なことや相談したいことがあれば、是非ともお近くの婦人科を受診して下さい。そして症状がなくても、市民検診やお近くの産婦人科で、定期的に子宮頸がん検査を受けるようにして下さい。

当センターが取り扱うがんの種類

肺がん・縦隔腫瘍／乳がん／胃がん／大腸がん／食道がん／肝がん／胆嚢がん・胆管がん／膵がん／前立腺がん／膀胱がん／腎がん／尿路がん／精巣がん／血液腫瘍（白血病、リンパ腫など）／子宮がん／卵巣がん／脳腫瘍／骨軟部腫瘍／頭頸部がん／小児がん／皮膚がん／原発不明がん／性腺外胚細胞腫瘍／眼腫瘍／口腔がん

外来受付がリニューアルしました！

入退院センター

患者さんに安心して入院していただけるよう、また退院後必要になる支援などをご案内できるよう、入院前に患者さんの状況を看護師がお伺いする「入院前問診」を充実させるため、面談室を整備しました。

入院申込み



医師から入院の指示があった場合に、入院の申込をしていただけます。入院時、入院前に必要なことをご説明します。

入院前問診



入院前に患者さんの状況を看護師がお伺いし、入院に関して必要な注意事項をご説明します。退院後に必要になる支援もご案内します。

かかりつけ医紹介



当センターで行う急性期の治療が落ち着いた場合、お近くで日常的な診療を行ってもらう診療所をご案内しています。

総合受付

場所を移転してリニューアルしました。総合受付では「初診受付」「診断書受付」「予定入院当日の受付」「各種お問合わせ」を行っています。当センターに受診したことのある患者さんの受診は診察受付1～4で行っています。

初診受付



当センターの受診が初めての患者さんの受付をします。診察券の発行やカルテの作成をします。

診断書受付



各種診断書の申込の受付を一括して行う窓口です。診断書の交付もこちらで行います。

入院当日の受付



入院当日の各種書類のお受取りや入院病棟のご案内を行っています。

市民医学講座のお知らせ

**認知症には
ならへん！なるかな？
なったらどうしよう!?**



申込不要*参加無料*当日先着250名

日時 5月24日(水)
14:00~16:00

場所 大阪市立総合医療センター
さくらホール

講演

- 「認知症の進行を防ぐ取り組み
～大腿骨頸部骨折～」
- 「運動と認知症の気になる関係」 ほか

ふれあい広場

福祉用具の展示 体験もできます!! 各種相談窓口開設

主催：都島区北部地域包括支援センター・都島区北部地域総合相談窓口連絡会
大阪市立総合医療センター

今後の予定

☆楽しい講座内容を企画中です☆

7月15日(土)
13:30~15:30

小児医療センター講演会

9月9日(土)
14:00~16:00

市民医学講座

9月10日(日)
13:30~15:30

小児青年てんかん診療センター
公開セミナー

11月1日(水)
未定

市民公開糖尿病ゼミナール

12月9日(土)
14:00~16:00

市民医学講座

3月10日(土)
14:00~16:00

市民医学講座

